

ご存じですか？

各自治体で行う がん検診



がんは日本人にとって身近な病気です。にもかかわらず、ほとんどのがん検診の受診率は50%にも達していません。医療の進歩により、種類によっては以前ほど怖い病気ではなくなりましたが、がんは早期発見が重要であることに変わりありません。

国は、科学的根拠にもとづき、5つのがん検診を推奨しています。お住まいの自治体の情報をチェックして、早期発見のチャンスを逃さないようにしましょう。

1 日本人が生涯で
がんにかかる
確率

2

1 日本人が
がんで亡くなる
確率

3

国が推奨する **5** つのがん検診

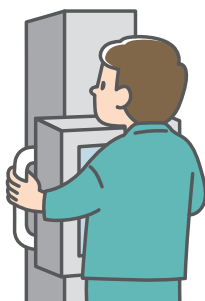


胃がん検診

胃部X線または胃内視鏡検査

対象 50歳以上 間隔 2年に1回

胃がんの主なリスク要因は、ヘリコバクターピロリ菌、塩分のとりすぎ、喫煙、多量飲酒などです。女性より、男性に多いがんです。



肺がん検診

胸部X線・
ハイリスク者は喀痰細胞診追加

対象 40歳以上 間隔 1年に1回

肺がんになるもっとも大きな原因が喫煙です。受動喫煙でも罹患リスクが上がります。女性より、男性に多いがんです。



大腸がん検診

便潜血検査2日法

対象 40歳以上 間隔 1年に1回

食生活の欧米化を背景に、大腸がんで亡くなる人が増えています。女性より、やや男性に多いがんですが、女性の死亡数の第1位です。



乳がん検診

マンモグラフィ

対象 40歳以上 間隔 2年に1回

女性が罹患するがんのなかで、もっとも多いのが乳がんです。罹患数、死亡数ともに増加傾向にあります。早期に発見できれば治りやすいがんです。



子宮頸がん検診

子宮頸部細胞診(医師採取)

対象 20歳以上 間隔 2年に1回

ヒトパピローマウイルス(HPV)に持続感染することで、子宮頸がんになると考えられています。

※HPV検査単独法を導入している自治体では年代に応じて検査法が異なります。

がん検診の対象・間隔、費用負担などは各自治体によって異なります。詳細はお住まいの自治体へお問い合わせください。

検診の結果、「**要精密検査**」となった場合は必ず精密検査を受けて、がんの有無を診断してもらいましょう。